

# 病院の 実力

～千葉編 52

## 病院の実力「不妊治療」

医療機関別2011年治療実績(読売新聞調べ)

医療機関名	延べ妊娠数(件)	体外受精(件)	顕微授精(件)	凍結融解胚移植(件)	35歳以上の割合(%)
高橋レディース②	397	8	12	75	65
中野レディース②	300	30	30	40	60
みやげウィメンズ②	285	19	13	33	20
津田沼IVF②	272	30	14	30	39
千葉メディカルセ	205	21	28	37	-
亀田総合	168	4	7	51	50
市川アート②	157	9	15	43	52
共立習志野台	148	0	0	0	43
東京歯科大市川総合	124	9	15	5	60
東邦大佐倉	120	8	20	10	83
川崎レディース②	88	1	0	1	40
松戸市立	45	5	2	16	64
成田赤十字	15	2	0	0	53
吉田レディース②	4	-	-	-	75
千葉大	1	0	0	1	100
不妊治療・婦人科いがらし②	47	2	1	5	55
根本産婦人科医院	20	3	3	0	40
小鳩医院	-	4	0	10	-
セントウィメンズ②	約650	48	-	189	-
大宮レディス②	515	22	22	79	94
ミューズレディス②	336	10	9	137	49
埼玉医大総合	192	7	8	131	53
瀬戸	84	14	0	0	64
大宮中央総合	約60	5	5	5	-
埼玉社会保険	60	10	6	14	72
埼玉医大	37	1	5	1	49
恵愛・生殖	32	7	7	18	84
熊谷総合	20	1	0	0	40
かしわざき産婦人科	-	2	4	25	-

千葉

茨城

埼玉

妊娠数は、胎嚢(たいのう)が確認されたもの。  
「②」はクリニック。「セ」はセンター。  
「-」は無回答または不明。

今回の「病院の実力」は不妊治療を取り上げた。不妊治療は通常、排卵日を調べ、当日かその前後に性交する「タイミング法」から始め、次いで、精子を洗浄・濃縮して排卵日に合わせて子宮内に注入する「人工授精」を行う。それで妊娠しなければ「体外受精」などに進むことが多い。

## 不妊治療

# 高齢受診 妊娠率低下も

縮して排卵日に合わせて子宮内に注入する「人工授精」を行う。それで妊娠しなければ「体外受精」などに進むことが多い。一覧表では、2011年の延べ妊娠数と、そのうち「体外受精」「顕微授精」「凍結融解胚移植」の件数、妊娠数に占める35歳以上の割合(%)を掲載した。「体外受精」は、注射で取り出した卵子に精子をふりかけ、受精させ、培養器で育ててから子宮に戻す。「顕微授精」は、状態の良い精子を一つだけ選んで卵子に注入し、やはり培養した後に子宮に戻す。「凍結融解胚移植」は、体外受精や顕微授精によってで

### 冷えに注意必要



高橋レディースクリニック  
高橋 具視さん

40歳前後で初診に訪れる女性が増えてきた。卵巣の老化は早く、それが不妊や流産などにつながることを知ってほしい。

体外受精はもともと卵管に障害がある女性のための方法。顕微授精は精子欠乏症や

きた受精卵を一度凍結し、子宮の状態の良い時を選んで融解して移植する。日本産科婦人科学会が08年、多胎予防のため、子宮に戻す受精卵を原則1個とする指針を出したことから、余った受精卵を有効に使うと、

凍結の件数が多くなっている。晩婚化などに伴い、30歳代後半以降の患者も増えている。国立成育医療研究センターの斉藤英和・不妊診療科医長は「35歳女性の体外受精による妊娠率は約23%で、年が1歳増えるごとに1〜2割ずつ下がる。なるべく早く診察を受けてほしい」と話している。

受精障害のため。不妊の原因を明らかにし、適した治療を受けることが妊娠につながる。若い女性に気をつけてほしいのはまず冷えだ。卵巣の血流の減少が卵巣へのダメージにつながる。婦人科検診も必ず受けてほしい。そして不妊が疑われたら一日も早く受診してほしい。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は6月3日「精神科」の予定です。